

民報あばしり

NO.873

2012.7.1

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三三・四四五八
F 四三三・四四五七

日本共産党議員団が

市条例改正案に反対



日本大震災復興に係わる防災関係の必要財源の確保に關しての地方税法の一部改正です。その中で個人市民税の退職所得に係る税額控除の廃止は、退職者の生活設計に影響を与え、退職者の生活設計に影響を与えること。また、個人市民税の均等割りの増額は、3000円を3500円に増額し10年間にわたって行う。一方、大企業には法人税を5%減税した上で減税の範囲内で付加税を3年に限って課すという実質減税になります。

日本共産党議員団を代表して松浦議員は、議会最終日の21日、議案第4号網走市税条例の一部を改正する条例制定、議案第5号網走市印鑑の登録及び照明に関する条例等の一部を改正する条例制定に反対しました。

議案第4号は、経済社会の構造変化に対応した税制の構築を図るため、東

国保料引き上げ

先週の記事にも掲載しましたが、今回の国保料引き上げによって、昨年引き下げた分が事実上、元に戻った形になります。

松浦議員は、一般質問でなぜ一般会計からの繰入で引き上げをしない方法を検討しなかったのかと質問しました。それ

に対しての答弁は、これまで通り一般会計からの繰入は、国保加入者以外の市民にとって、公平性に欠けると否

最後に市長が、国保制度の維持は財源が問題であり、国に対してしっかりと要望していきたいと述べました。

松浦奮戦モ！

まるで消費税増税の大政翼賛会です。衆議院で5月からはじまった消費税増税の議論、ところが、6月の中旬から民主、自

民、公明の3党が修正協議だといってホテルにこもって密室での協議です。

消費税増税法案の政府案に盛り込まれていた富裕層の所得税、相続税のわずかばかりの増税は、民自公の談合で削除されました。

すでに決まっている法人実効税率の5%減税に加えて、2015年以降にさらに大企業向けの法人税減税を検討する案も入っています。庶民には増税、大企業・富裕層には減税という許しがたいものです。

こんな悪法を民主党、自民党、公明党、国民新党、たちあがれ日本の政党が、国民の6割が反対しているのに強行するとは許されないし、大政翼賛化していて恐ろしい政治が危惧されると感じました。

参議院で廃案にするため引き続き署名を集めにも頑張りたいです。

いよいよ東奔西走

3党談合の強行採決！その陰には、約束した政権公約を吹き飛ばしていった暴挙しか残りませんでした。

3党談合で突然出て来た「社会保障制度改革推進法案」は、これまでまったく国会で議論されてこなかった「新法案」です。「自立・自助」を強調し、社会保障を抑制路線に逆行させさせる重大な改悪は、国に社会保障を充実させる義務を課した憲法25条を骨抜きにする法案にはなりません。

その一方、約束を破ったのは民主だけではありません。3党が増税法案を推進する根拠にしている09年の所得税法改定法の付則104条は、増税法案を提出する前提として「経済状況を好転させること」としています。この条文をみずから書いた自民税調の議員は、「経済状況は厳しく、前提条件は崩れている増税法案を提出するな」と11年11月参院予算委で民主党を追及しました。自民・公明も自分たちのつくった法律にさえ背いて民主と談合しています。審議は参院に移ります。

国会審議をないがしろにし、経済と財政を共倒れにする「増税談合勢力」に対し反対世論を大きくしてつっつき、孤立させていこうではありませんか。

流氷

初物とはいえメロン2個で100万円もする時代、少しくらいのことで驚かないつもりだったが、ノルウエーの画家ムンクの絵「叫び」がニューヨークの競売で落札。その価格はなんと1億909万ドル・約96億円には驚き。以前に複製画で見たその絵の強烈な印象は記憶が残っていたのだが、ゆれている様な風景とそこに立つ人物の表情は不安や恐怖に満ち、絶望の叫び声をあげる。現在の不安定な社会を象徴するような不思議な絵▼さて、ムンクの絵1点で約100億円という高値は1機で約100億円の次期戦闘機F35を連想させます。日本政府がアメリカから42機買う予定のF35です。今年度は4機導入の予定ですが、実はまだ完成しておらず納入は4年後に、価格は更に上がる予想とか。▼加えて、偵察用の無人機4機と大型輸送機2機も導入。しかし災害対策ではありません。無人機は原発の上空偵察用ではなく、ゲリラ偵察用。輸送機は国際平和活動という名の海外派兵用。F35は言うまでも無く戦争用そのもの▼そして日米地位協定では米側負担となっている米軍駐留経費を「思いやり」予算として1867億円に増額し、更なる無駄使いを▼民主党は消費税値上げ、福祉予算の切捨てに自公と密室協議に血道をあげる暇があるなら、被災地の救援、補償、放射能除去、避難民への手当てに全力を挙げよと言いたい。(K)